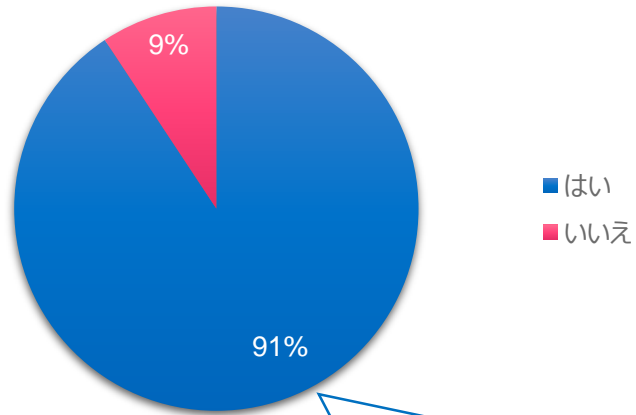


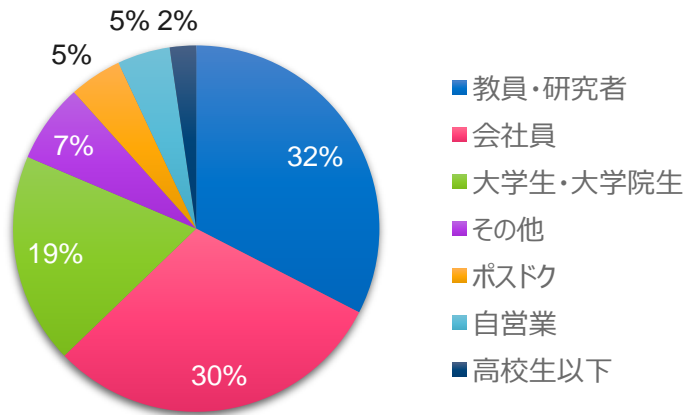
第一回アンケートの結果

第1回ムーンビレッジ勉強会に参加しましたか？



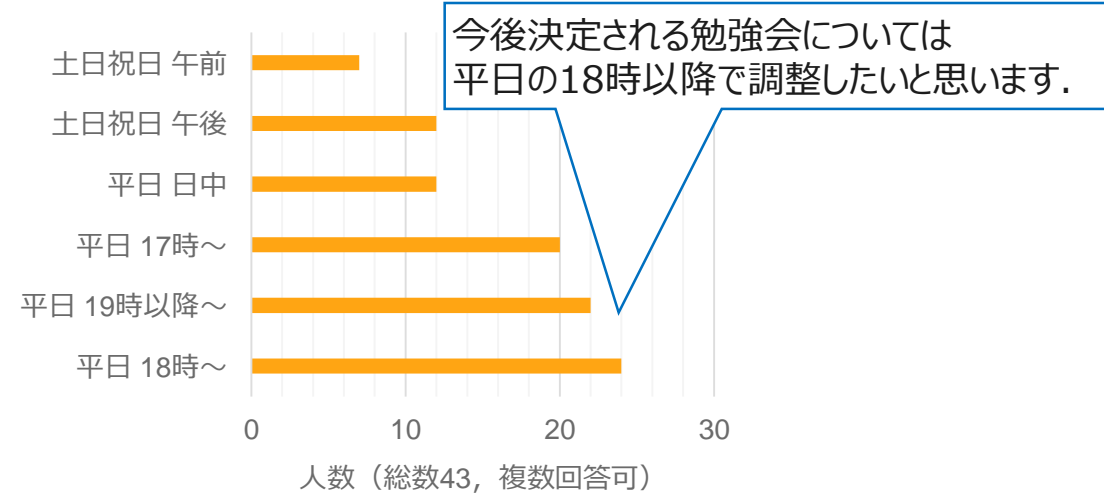
以下のアンケートは9割の出席者と、1割の欠席者の結果である。総数は43名。

ご職業

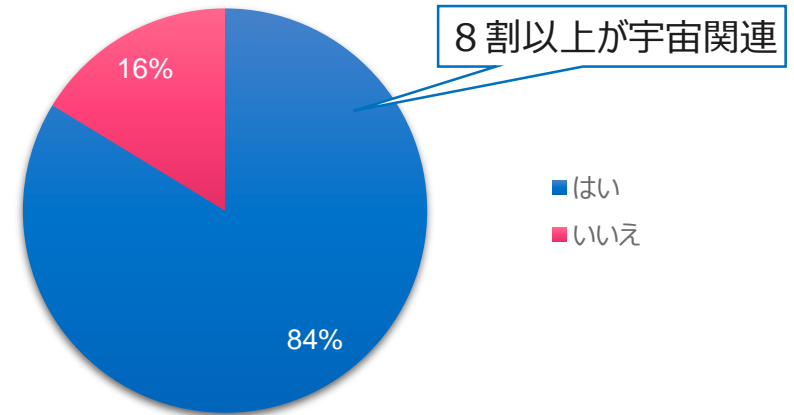


※一部その他に書き込んでいただいていた方は事務局側でカテゴリ分けしました。

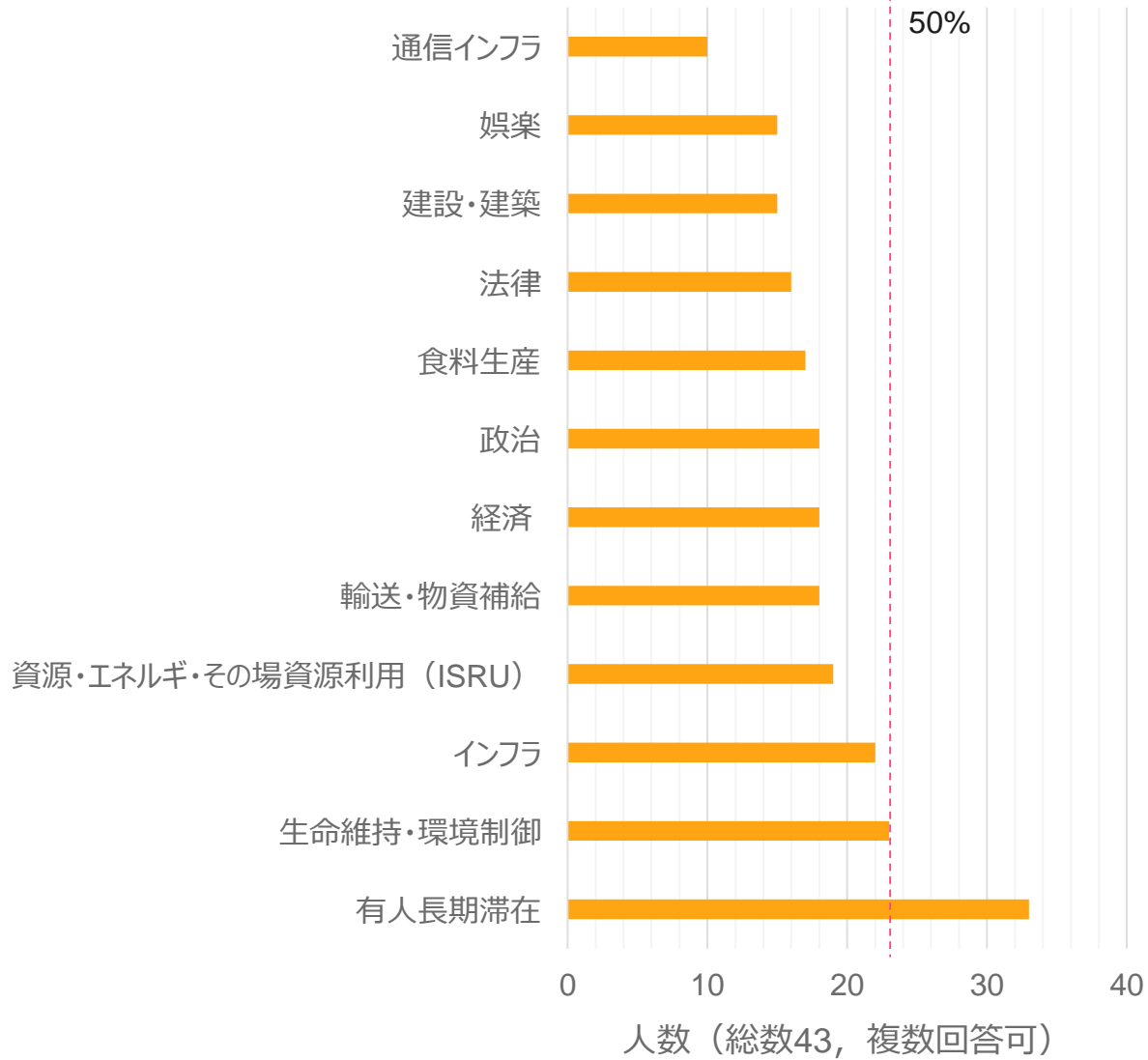
開催日は平日と休日どちらが良いですか？



仕事・研究は宇宙と関連していますか？



本勉強会で議論したい内容・興味のある内容



具体的な内容：

- 月面居住や月面基地を作ることの目的と意義.
- 人々は本当に月惑星に居住したいと考えているのか, どのように居住への動機づけを行うか.
- ムーンビレッジの形態や立地.
- 宇宙空間における秩序維持の方法について, 国際協調、紛争
- 微少重力環境下での疾病発症に対する治療・対処方法, 微少重力環境下での遠隔・自立医療の方法論
- ムーンビレッジの立地
- 国際協力の是非と国家機関の役割, 宇宙資源探査にまつわる法整備
- 地球から自立して生活するために必要なインフラは何かとその輸送量.
- 放射線防御、緊急時シェルター
- 大分県のスペースポートの利用方法

第一回勉強会に対する叱咤激励，第二回以降への提案等がありましたらご記入ください。

- レファレンスモデル作りというのがどういう物なのかわからない / ビレッジというものがどういう規模のものを指しているのかわからない
 - 一つのご意見として以下がありました。
「各分野の研究者・技術者を中心に生活を支える食堂、病院、通信、スポーツ娯楽などを担当するインフラ要員を考えると最低100人できれば（家族も同伴できる？）1000人が生活できる施設設計が具体目標の一つになるのかなと思う。」
- MV活動の共有理念・憲章・スローガンを描きだすことが必要
 - 規模等の検討と合わせて、今後の議論を通じて行う予定です。
- 質問の時間を多くしてほしい。
- チャット機能があるとはいえ発言のタイミングが難しかった。
- それぞれの分野で今後生じ得る問題、動向を参加者間で相互的に議論する時間が必要不可欠のように思います
 - Zoomのブレイクアウトルーム機能なども活用できるよう検討します。
- 日本人だけで検討したモデルでは、グローバルなレファレンスモデルになるとは思えない / 別の月面基地検討会とも連携したほうが良い
 - Moon Village Association との連携など、海外を含めた情報共有も視野に入れた活動にしていきたいと考えています。
- 若い方の質問や興味に対して居合わせた専門家が回答するという構図は、宇宙居住を目指す人材の裾野を広げ、知識を参加者で共有する意味で大変意義深いものと思いました。
- 第一回に参加した方が次回以降も参加されることが強く望まれます。
 - 多様なバックグラウンドを有した方々に継続して参加いただけますようよろしくお願いいたします。
- どのようなバックグラウンドの人がご参加されているか分かったと良いと思いました。また、参加者のうち各分野の主要な方々はどなたかも分かったと良いと思います。
 - 今回のアンケート結果のような形で参加いただいている方の背景や要望は適宜ご紹介させていただきます。
 - 実際のレファレンスモデルづくりを進めるにあたってはとりまとめをしていただく方などを決めていく予定です。
- 講演内容のハンドアウト等いただけるとありがたいです。
 - 先日HPに第一回の資料をアップロードしました。
- 今後もオンライン会議として実施いただけると、参加しやすく助かります。
 - 情勢が落ち着いた後リモートと実地の同時開催など、継続して参加いただけるように調整する予定です。